

# アスペン短期交換留学事業（派遣） 参加報告

1月5日から15日の日程で行われたアスペン短期交換留学事業（派遣）では、生徒11名・引率3名が姉妹都市アスペン市を訪問してきました。2月6日には総合センターで報告会が行われました。

参加者14名から報告をいただきました。「わーっ！楽しい！」

私の、アスペンでの思い出はアスペン生とみんなで滑ったスケートです。私は生まれて初めてのスケートで、今までテレビとかで、フィギュアスケートを見たりするくらいで、本当に滑るということ、前からずっと楽しみにしていました。

スケート靴を履き終え、いざリンクに立った時に、リースが、「ハイ！ユウ！」と、呼んでくれて、一緒に手をとってリンクの上に立ちました。私は人生初のスケートリンクの上に立って、子鹿のように足がプルプルしていました。すぐにみんなが歩行器を貸してくれて、私は「みんな優しいなあ。ありがとう。」と心の中で思っていました。

一歩ずつ歩行器を使って滑っていくうちに段々と滑れるようになり、歩行器なしでも、ゆっくりと滑れるようになりました。でも、みんな軽やかに

アスペンの思い出

植田 優

滑っている中で、私は見事に転んで尻餅をついてしまいました。とても痛かったけど、私もみんなみたいに滑れるようにゆっくりリンクを廻って滑りました。慣れてきた頃、丁度私のホームステイ先のメアリーがやってきて一緒に手を繋いで滑りました。メアリーはフィギュアスケートもやっていたとても上手でした。一緒に滑って他の子たちも笑顔でハイタッチしてくれたり笑ってくれたりしてとても楽しかったです。私とメアリーとの2ショットや、みんなでスケートをしている写真を撮って、みんなとひとつになれました。アスペンで、スケートができて楽しかったし、また行きたいです。

アスペンでの思い出

清水野 大夢

僕のアスペンでの思い出は、トマムの芽子ちゃんがホームステイしているコールの家と一緒にご飯を食べに行ったことです。そこで僕たちは、ピザを頼みました。

ピザを待っている間、子供たちみんなが日本でいうプリクラみたいなものをとりました。あまりとったことのないプリクラだったのですごく楽しくて3枚くらいとりました。そして中に戻るとピザがきていました。見た目すごく大きく自分の手の倍近くあって僕と芽子ちゃんは、「何これ、めっちゃでかい。」と言いました。

でも大きい分、すごくすくおおいしかったです。アメリカでピザを食べるのは、初めてだったのでとても嬉しかったです。僕たちは、他にアボカドのフライやさまざまなものを注文しました。どれもすごく美味しかったです。日本では、あまり集まってご飯を食べることはないので今回できて嬉しかったです。

そして最後に、みんなで集合写真を撮るときにフラッシュなしでカメラを店員さんにとってもらおうとしたら、フラッシュお願ひしますと言われ、フラッシュは、必要なだと知りました。

これから、日本でたくさん学ぶことがあるのでアスペンで学んだことを含め、これからの生活に生かしていこうと思います。

最後に今回、貴重な体験をさせていただきましたありがとうございます。



アスペンカントリーデイスクール訪問



## アスピンの思い出

夏堀 菜々未

私のアспенでの思い出は、スノーシューツアーです。

スノーシューツアーは、私たちがアспенに到着してから四日目に行われました。その日は、午前にかントリーデイスクールを訪問した後、午後にスノーシューツアーを行いました。スノーシューツアーは、山のとても高い所までゴンドラで行き、そこからスノーシューを履いて森の中を歩くというものでした。スノーシューツアーをやる前は、「スノーシューツアーは、なんでやらなきゃいけないんだろう?」と思っていました。けれど私はスノーシューツアーをやり終わると、「最初はツアーやるのがいやだったけど、とても面白かったし、楽しかったし、とても勉強になったな、やって良かったな」と思いました。その理由は、歩き始めると、すぐに森の中へ入り、動物たちの足跡や鳥の糞など、動物たちはちゃんと生きてるんだなと感じるものがたくさんあったし、雪をじーっと見つめていると、山の雪は雪の結晶がはつきり見えるぐらい大きくてびっくりしました。また雪はとてもサラサラ、ふわふわしていて触り心地がとても良くて、そこにずっといたいなと思いました。

この他にもアспенでの思い出

は、スマグラバー鉱山ツアー、スノーマスでのスキーなどまだまだたくさん思い出があります。

最後に、このような貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

## アスペンに行つて

藤原 もも

私は、アスペンに行つてたくさんの事を学び、楽しんできました。最初に受け入れの話を聞いたとき「えっ?男の子!」と、とても驚き、それ以上に不安でした。

でも、実際に会ってみると、ステイアンはとても優しく、家族思いで明るい人だったので不安は一切なくなりました。アスペンに行く前も不安より楽しめという感情しかありませんでした。行つてからも変に気を遣うこともなく、楽しく会話することができたのは、全てステイアンのおかげです。また、弟2人も初日から私にたくさん話しかけてくれたり、アメリカのゲームを教えてくださいたりと家でもとても楽しく過ごすことができました。

1番思い出に残っているのは、家族で大きな打ち上げ花火を見に行つたことです。その日は、きつとお祭りか何かだったんだと思います。とても大きくて綺麗でした。たくさんさんのひとが街にいて、迷子になり

そうでした。時間は短かったのですが、とても綺麗で占冠のふるさと祭りを思い出しました。(そこからたくさんの方を連想し、占冠での思い出や先生方や家族のことを思い出して一人で涙目になっていたので皆に見られてしまいました。・。・)

他にも皆で放課後に集まってスケートをしたり、買い物をしたり、ピザやタコスを作ったりと、とても楽しかった思い出がいっぱいです。今回、十月の受け入れの時以上に英語の大切さや自分の気持ちを伝える事の難しさを実感しました。同時に、アスピンの良さにもたくさんふれることができました。私は、将来絶対にまたアスペンに行こうと思います。そして、もう一度ステイアンとステイアンファミリーに会いたいです。

最後に、こんなに貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

## アスペンでの思い出

堀井 麻美

私のアスペンでの思い出は休日にホストファミリーと外で遊んだりボウリングに行ったりしたこと

です。外遊びでは雪だるまをエラとエラの兄弟のジョージ、オーウェンと



一緒に作りました。

「日本でも雪だるまは作るの？」

「小さいけど作るよ！」

というように沢山会話もできました。その他にも雪合戦やトランポリンなどもしました。外遊びはすごく久しぶりにしたので楽しかったしエラ達ともさらに仲良くなれたのでよかったです。

そしてその後、用事がありこれなかった人もいましたが、ほぼ全員でボウリングをしました。アメリカのボウリングは、ボールが重たかったし、一ゲームが長かったのでびっくりしました。

誰かがストライクをとるとみんなでハイタッチをして喜んだりしてすごく盛り上がりました。私もストライクをとったとき、拍手やナイス！と声をかけてくれてとても嬉しかったです。

今回の交換留学では初めてのことが多く、すごく不安な気持ちでした。アスペンでは体調を崩し熱もだしてしまい、ホストファミリーには沢山の迷惑をかけてしまいました。しかしホストファミリーは毎日「大丈夫？」や「一緒に遊ぼう！」と沢山声をかけてくれました。私は改めてホストファミリーとアスペン生が大好きになりました。

先生方や友達にも迷惑をかけてしまいましたが、沢山の思い出を

つくることができました。本当に貴重な体験をありがとうございました。

#### アスペンの思い出

増子 翔大

僕はアスペンでたくさん思い出ができました。特に印象に残った思い出が三つあります。

一つ目は、アスペン空港で約二ヶ月ぶりにアスペン生と再会したことです。空港でアスペン生は、「Welcome to Aspen」と書かれた紙を広げてアスペンに来たことを歓迎してくれました。そして、ジョンに久しぶりに会って少し話をしてから、ジョンの家族と会って、自己紹介をしました。ジョンの家族は、優しく、面白く、とても楽しい家族でした。これから八日間しっかりとコミュニケーションをとっていきましょうと思えました。

二つ目は、人生初のスケートです。スケートは、二回やりましたが人生初なのでうまく滑るどころかしっかりと立つこと自体が難しく、何度も何度も転びそうになりました。二回目では少し慣れてきて少しは滑れるようになってきて楽しく滑れました。しかし、何度か転びそうになりました。

三つ目は、スノーマスでのスキーズです。スノーマスは、占冠と比

べて非常に標高が高いため、とても疲れましたが、楽しく滑れました。アスペンの時が今年度初めてのスキーで怖かったのですが大丈夫でした。アスペン生はとても上手で少しいて行けなかったのですが楽しかったです。途中に自分の持っていたストックを破壊してしまいました。アスペン生もとても楽しかったです。

#### アスペンの思い出

森田 胡桃

私は一月五日から十五日までの十日間、アスペン市へ交換留学に行ってきました。

アスペンでの生活には、驚く事がたくさんありました。特に、私の印象に残っているのは、アスペンに着いた翌日の昼食に、みんなが食べたハンバーガーです。前から「向こうの食べ物、物凄いボリュームだ」と聞いてはいましたが、予想以上のボリュームで、とても驚いた事を覚えています。一緒のお皿に盛られていたフライドポテトも、日本のような棒状のものではなく、変わったうずまきのような形をしていて、不思議だな、

アスペンでの思い出

鈴木 愛

私がアスペンに行つて思い出に残つたことが二つあります。

一つ目は、本場で食べたハンバーガーです。お店でのハンバーガーはとてモリユームがあつて、1皿にポテト、ハンバーガー、サラダが置いてあり、サラダは好みで好きなものを入れられるようになっていました。私はピクルス抜きで食べました。サラダを入れると、さらにモリユームが増して一口では、少ししか食べられません。ドリンクはコーラにしました。最初コーラは水と同じサイズかなと思つていましたが、予想は外れ、水よりサイズが大きかったです。私はハンバーガーがおいしかったので普通に食べることができましたが、コーラは少し残してしまいました。でも本場のハンバーガーはとておいしく、コーラもとてもおいしく飲めたのでよかったです。

二つ目は、スキーです。私は今年初めてのスキーだったのでスキーの感覚をすっかり忘れ2〜4回も転んでしまいました。それに、お昼ご飯を食べ終わりと、1回下に降りてスキー靴を替えようとスキー靴を脱いだとき、足をつつてしまいました。私はその後アナベルパパとアナベルと一緒にコアを飲んで20〜30分くらい休んでからスキーに戻りました。最後は本気で3本滑れたのでとても楽しく

つたです。

今回は、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

アスペンに行つて

高桑 里奈

今回、アスペンに行かせてもらいました。私は、アスペンに行く前は、とても不安でした。何が不安だったかというと、親元を離れてホームステイの人たちとコミュニケーションをとれるかです。フィリップが日本に来たときは、自分から積極的に話しかけることができず、親に頼つてばかりでした。

でも、アスペンに行くと、ホームステイの人たちは辞典や翻訳機などを使って一生懸命日本語で話しかけてくれました。私は、そんなホームステイの人たちの姿を見て「私ももっと頑張らないか」と思いました。質問をしたり、質問に答えたり辞典を使って頑張りました。最初は、とても不安でしたが、アスペンに着いたとき笑顔で迎えてくれたり、いつも優しくしてくれたりして、安心することができました。

フィリップとは、ゲームをしたり、たくさん会話をしたりしました。ゲームでは、フィリップの友達ともやりました。フィリップの友達は、すごくフレンドリーで話しやすかったです。ゲームもみんな上手でびっくりしま

した。何より、ダンスがすごく上手でした。この日、アメリカの人は、フレンドリーでとてもテンションが高いと思います。私にも、あのフレンドリーさとテンションの高さを分けてほしいです。

アスペンでは、たくさん思い出ができました。スキーをしたり、初のスケートをすることができてとても楽しかったです。また、アスペンに行きたいです。次、アスペンに行くと今度は、今からもっと英語の勉強を頑張つてホームステイの人たちともっとたくさん話をしたいです。今回、このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

### アスペン短期交換留学事業 (派遣) スケジュール

1月5日 (月)	アスペン到着 ウェルカムパーティー
1月6日 (火)	スマグラー鋤山ツアー
1月7日 (水)	スキー (スノーマス)
1月8日 (木)	カントリーデイスクール訪問
1月9日 (金)	アスペンコミュニティスクール訪問 スノーシューツアー
1月10日 (土) ~11日 (日)	ホストファミリーと共に過ごす
1月12日 (月)	アスペンミドルスクール訪問 スノーマスレクリエーションセンター フェアウェルパーティ
1月13日 (火)	アスペン出発 サンフランシスコ 市内観光
1月14日 (水)	サンフランシスコ出発
1月15日 (木)	帰国



アスペンコミュニティスクール訪問

と思いました。そして、どちらも味付けがとて濃く、一口でお腹がいっぱいになってしまいそうでした。私は「ずっと、本場のアメリカのハンバーガーを食べてみたい。」と思っていたので、夢が叶ってうれしかったんです。ホームステイ先のエルザの家では、エルザをはじめとしたホストファミリーが、いつも優しく、明るく接してくれたので、私は安心して休むことができました。言いたい事がなかなか伝わらなくて、私が困っている時も、ジェスチャーや、簡単な単語を使って、理解しようとしてくれた事が、とてもうれしかったし、感謝しています。最後に、今回このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございます。ありがとうございました。

アスペンで楽しかったこと

青山 桃菜

わたしがアスペンに行つて楽しかったことと、驚いたことについて説明します。

まず、私がしたかったこと二つを紹介します。一つ目は、スキーです。スキーはスノーマスの大きなスキー場に行きました。そのスキー場は、日本のスキー場の何倍もあって見ているだけで楽しかったです。でも、リフトに乗っていき滑ってみると、日本とは違う雪質や違うスキー場に興奮して一人舞い上がっていました。滑つ

ていてもとても楽しかったです。アスペンの人がとても上手で、「もっと練習すればよかつたな」と思いました。

二つ目は、スケートです。スケートは、学校が終わった後に、私とゆうちゃん、芽子とアシユビーとメアリーで行きました。私とゆうちゃんと芽子でスケートリンクの横を滑っていました。スピンの練習ももらつたので、スピンの練習もしてみました。私は、少しだけスピンができるようになってうれしかったです。あと、芽子やゆうちゃん、アシユビーにメアリー、いろんな人とスケートをして楽しかったです。教えてもらつたスピンの完璧にできるように練習したいです。そして、アシユビーに練習の成果をいつか見せてあげたいです。見せられるように練習をがんばりたいです。

次に、私が驚いたことについて紹介します。私がアメリカに行つて驚いたことは、とにかくハンバーガーが大きいことです。ハンバーガーのパンも大きいし、何といてもハンバーグがとて大きくてびっくりしました。そして一緒に飲む飲み物も大きいカップに満タンにつがれていたのびっくりしました。今度、私もあんな大きなハンバーガーを作つてみたいです。

アスペンでの思い出

蔵田 芽子

私のアスペンでの思い出は数え切れないほどありますが、今回は、その中でも三つのことについて紹介しました。

一つ目は、スキーです。スキーは、アスペン生がコースを案内してくれて、みんなで楽しく滑ることができました。最後に行ったジャンプ台では、自分が思った以上にとんで、びっくりしました。

二つ目は、休みの日に、桃菜さんとアシユビーと私とコールでゲームをしたり、ソリスベリをしたり雪だるまを作つて遊んだことです。ゲームは、マリオをやつて、コールのコンテンツューが八回なったことに驚きました。ソリスベリでは、とても長いコースを滑つてとても楽しかったです。雪だるま作りは、雪だるまファミリーを作つてとても楽しかったです。

三つ目は、学校の自由さに驚きました。アメリカでは、学校にスマホや音楽プレーヤーなどを持つていてもよし、服装も自由、マニキュアやピアスもだいじょうぶ。授業中に飲み物を飲んでもだいじょうぶ。私は、これを最初に見た時、想像していたよりも自由で、驚きました。しかし、そうであっても授業は私から見れば、難しくなりました。

私は、アスペンへ行つてこれらのことを体験してきました。アスペンで

の経験は、きつと一生に一度できるかできないかのことだったと思います。とても楽しく、いい経験になりました。できることなら、もう一度アスペンへ行きたいです。



フェアウェルパーティー



アスペンミドルスクール訪問

違いはあつていい。

引率 荒木 健地

アスペン短期留学から帰ってきて子ども達の顔が見違えるほど大人びたことに気づきました。たった10日で、ここまで成長するのかと驚かされました。それもそのはず、アスペンでは本当に多くのことを学びました。もちろん、私自身も。

アスペンでの生活は驚きと、発見の連続でした。荘厳な山々と美しい街並み。建物から車、食べ物までなんでもビッグサイズ。学校の授業やクラブ活動の内容も日本とは異なりました（飛行機の操縦の授業やレゴブロック部なども）。子ども達はそ

の一つ一つに「すごい」と感嘆の声を上げていました。もちろん不安もありました。子ども達にとつては初めて親元を離れての旅。しかも言葉も文化も違う異国の地。気候と時間のズレも重なり、体調をくずす子もいました。それでも、最後まで子ども達が笑顔で過ごすことができたのは、偏にホストファミリーのおかげです。英語と日本語、言葉に隔たりはあります。ですがその壁は、「伝えたい」「相手のことを理解したい」という気持ちで乗り越える事ができます（翻訳アプリも大変便利でした）。彼らは時間を惜しみませんでした。会話はゆつくりと、こちらの事を考えて、本当に愛情深く接してくれました。そうしてくれたのはきつと、日本での受け入

れの際に、こちらのホストファミリーの皆様が同じように接してくれたからなのだろうと思いました。

違いはあつてもいい。その違いを互いに認め合い、理解し合おうとする事が大切なのだ子ども達も、私自身も学びました。このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝し、今後もさらに両国の友好が深まることを願っています。

アスペン市との交換留学を終えて

引率 今西 将悟

わずか10日間の交換留学でしたが、子ども達の成長を大きく感じさせるものでした。

私は普段英語科担当として、英語を教えています。占冠の生徒は英語に関する興味が非常に高く、これも占冠村が行っているアスペン市との交換留学事業や週に1度あるALTとの授業が行われているおかげであると大変感心しております。

子どもたちは、はじめこそは日本とは違う環境に戸惑いどこか物怖じしておりましたが、なんとかコミュニケーションを取ろうと努力しておりました。言われたことに対して自らの意思を伝えることができたのももちろん、何をどうしたいのかという自分の意思を英語での伝える場面も多くありました。以上のことは、日本の授業だけでは伸ばすことが難しい能力であり、大いに意義がある

ものであると感じます。また、普段学校で習った英語表現を自分なりに解釈し使用して、なんとか相手に伝えたいという意味も見られ嬉しく思っています。

そして私自身にとつても初めての英語圏での生活となり、驚くことが多くありました。その中でも特に驚いたことは、誰とでも知り合いのよう

に接するという事です。車に乗っていると笑顔でジェスチャーを交えながら道を譲る場面が多く、ショッピングセンターでは気軽に「今日の調子はどう？」と話しかけてきて、そこから日常会話につながる事が多かったです。

アスペン市との交換留学を終えて

引率 登 和哉

今年度の引率として、アスペンへ行かせていただきました。私にとつてアメリカは二度目でしたが、引率という仕事の一つという意味では初めてのこと、トナム中の2名の生徒と、様々な準備をしてきました。生徒たちの色々な表情を見られたり、短期間の中で生徒たちの成長も見る事ができました。また、私にとつても多くのことを学ぶことができた機会となりました。

全体の活動を生徒達と一緒に過ご

し、11名それぞれの表情を近くで楽しませてもらいました。学校の授業では、文法にそつた英語を学びますが、実践の場になると、文章になっていなくても、会話は成り立ちます。正しい単語や表現もありますが、難しい表現を使わなくても、自分が知っている英語でコミュニケーションが取れるという事を、生徒一人ひとりが感じてくれたら、英語を専門とする立場としても嬉しく思います。

ある質問に対して、テストでは「Yes, I do.」でなければ、点数が取れないこともあります。会話では「イエス」だけで足りてしまいます。教える立場として矛盾はしますが、正しい英語と、コミュニケーションにおける必要な言葉というのは、全てが一緒とは言えないところがあると思います。しかし、「授業ではない」ところで、自分の英語で会話ができるという経験は、生徒一人一人にとつて英語の教科書からは学ぶ事ができない、大きな財産になることだと思います。

個人としては、アスペンの山の上からの自然の景色や、サンフランシスコでアルカトラズを見る事ができ、今後忘れる事がない思い出となりました。来年度以降も含め、13〜14歳の時期だからこそその感性があり、表現があります。その経験が、彼らの人生の中でかけがえのないものになることを願っています。